

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	・サクラマスが不漁(後志・岩内・せたな) ・ヤリイカが不漁(檜山) ・天然リシリコブ(2年生)の繁茂が良好(礼文) ・いかなごが不漁(後志・岩内) ・定置網でブリが漁獲。多い漁家では11tも水揚げがあった(岩内)	水温・4月上旬は平年より2～3℃低かったが(岩内～稚内)、5月は2℃高く(石狩)、6月は3℃低かった(せたな)	ホタテガイ幼生の出現が例年より遅く、採苗は10日ほど遅くなった(後志～稚内)	特になし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	青森県日本海沿岸の漁獲量は、スルメイカが不漁で、前年同期の25%に留まった。一方、マグロ、ブリでは前年同期の221%、483%となり、好漁であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	・本県沖のスルメイカの漁場形成が悪く、6月の県外船入港がほとんどなかった。6月末現在のスルメイカ水揚げ量は、1月からの累計で215トンと近年最低の値となった。 ・定置網で漁獲されたマグロ類のピークは、H20年以降は5月下旬から6月下旬であったが、今年は、最も早い5月中旬にピークとなった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	4～6月にブリ類が定置網で多獲された。(2～97トン/月、平年比224～432%)	4月に南部の底びき網漁場で局所的に、泥の堆積による操業障害があった。	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	・佐渡地区の定置網でクロマグロが豊漁。定置網6組合の5～6月のマグロ(20kg以上)の漁獲量は206トンで、過去5カ年平均の2.2倍。30kg前後サイズが主体。 ・南部海域の筒石・能生地区でマダイが豊漁。5～6月の漁獲量は133トンで、過去5カ年平均の3.1倍。FL45cm、10歳以上の大型魚が主体。	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	フグ類(主にマフグ)が大量に漁獲された。 平成26年4～6月の3ヶ月間の漁獲量は135tで、過去5ヶ年の同期間の平均漁獲量33tの4.1倍を記録した。	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	4月のサワラ漁獲量が228トン(前年同月1トン)、5月のマルコ漁獲量が119トン(同23トン)、5～6月のツバス漁獲量が549トン(同84トン)、5月のヒラマサ漁獲量が29トン(同8トン)と昨年に比べ多かった。一方、5月のマアサ漁獲量が19トン(同148トン)と少なかった。なお、これらの大部分は大型定置網による漁獲である。 その他、府沿岸域でカマイルカの出現が目立った。	特になし	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	今年定置網においてマイワシの漁獲がほとんどなかった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	【境港まき網】 ・マイワシ 増加傾向にあった水揚量は、2009年と同等の820tと減少した。(09年841t、10年2,674t、11年22,618t、12年14,256t、13年12,514t)また、水揚げ主体は満1歳魚で、高齢魚はほとんどなかった。 ・ブリ 水揚量は、5,600tと過去最高(1989年以降)となった。また、4、5月の各単月においても過去最高の水揚げとなった。(4月2,951t、5月2,010t) ・クロマグロ(まぐろ銘柄) 6月2日に初水揚げがあり、体重30kgサイズ主体に6月単月の水揚量は、1,238tと好漁であった。(11年1,106t、12年225t、13年740t)	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	・マダイの産卵の遅れ(約1カ月) ・6/18鳥取市酒津沖の水深35mで、イカ釣漁業者がこぶし大(約8cm)のサワラ稚魚を目撃(漁灯で寄ってきた見慣れない稚魚をタモですくってみたらサワラだったとのこと)。ただしサンプルなし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥根県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし